

玉井小だより

平成29年 3月 3日
大玉村立玉井小学校
TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

登校班の班長が引き継がれました

2月28日(火)、登校班の班長会が行われました。新しい班長さんが決まり、6年生から5年生や4年生の新しい班長さんへ横断旗が渡されました。集合場所や集合時刻、気をつける場所などを確認し、新しい1年生を迎える準備もしました。

そして3月1日(水)からは、新しい班長さんが先頭になって登校しています。新しい班長さんはまだ少し緊張気味で、先頭で「おはようございます。」とあいさつするのも少し恥ずかしそうです。6年生が新しい班長さんを気遣い、下の学年の子が列から出ないように世話をしている姿も見られます。いい姿だなと思います。

「班長さんが待っていてくれるから」「友達と一緒にだから」という思いが、子どもにとって大きな力になるのだと思います。登校班があることで、仲間がいることで、頑張って登校できるということもあります。登校班も大事な学びの場になっています。

新しい班長さんが頑張っています。保護者のみなさま、地域のみなさま、どうか子どもたちに励ましの言葉をかけて下さい。お願いします。



【班長さん、頑張ってるね！】

「応援する」ということ

3月1日(水)、「鼓笛隊移杖式(引き継ぎの式)」と「6年生を送る会」が行われました。

6年生がていねいに教えてくれたので、4年生と5年生の新しい鼓笛隊も、立派な演奏ができました。

そして、鼓笛隊の移杖式に引き続き、「6年生を送る会」が行われました。ゲームや歌、そしてプレゼントの贈呈などが行われました。6年生が卒業するので、さみしくて泣いてしまう1年生もいました。

6年生が本当にみんなから慕われていることがよくわかりました。

会場になった体育館の中央には大きな垂れ幕が用意されました。5年生が先生と一緒に考えて、作ったそうです。その垂れ幕には次のように書いてありました。



【ありがとうございました】

〈裏へ続きます〉

「六年生のみなさん、今まで ありがとうございます。」

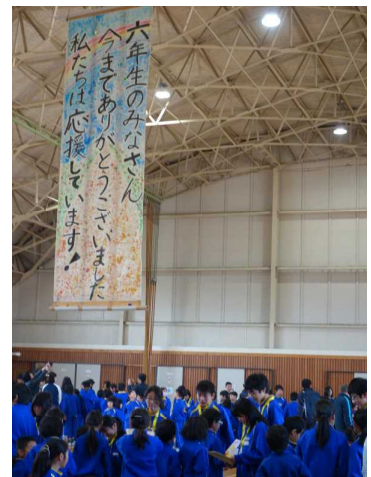
私たちは 応援しています！」

「私たちは応援しています」というところが、本当にいいなと思いました。

子どもたちはみんな大事に育てられていて、「応援される」ことには慣れています。それに比べ自分が応援するということは少ないのかもしれませんが。

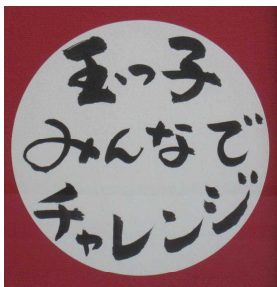
本当に大切なことは「誰かを応援すること」「誰かを応援する側にまわること」なのではないでしょうか。そして、応援することによって力や勇気をもらうのは、もしかすると「応援する側」なのかもしれません。

玉井小の子どもたちは応援できる優しさがあるのだと感じました。とてもいい会でした。



【6年生へのメッセージ】

平成29年度も『玉っ子 みんなで チャレンジ』



2月23日(木)に開催された第9回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会で、「平成29年度玉井小学校の学校運営の方針」を委員のみなさんに説明をし、みなさんから承認していただきました。

本当に変化の激しい時代です。2030年頃には、AI(人工知能)の時代になり、今ある職業や働き方も大きく変わってくるだろうと言われています。

このような中、コミュニティ・スクールの委員のみなさま方には、学校の応援団として学校をよく理解していただき、支えてくださっていることに心から感謝しています。誰かに認めてもらって、励ましてもらうことで教師も頑張ることができます。

さて、平成29年度も玉井小学校は『玉っ子 みんなで チャレンジ』をスローガンに掲げ、子どもたちが自ら進んで学んでいくよう教育活動を進めていきたいと考えています。

次年度は特に、子どもたちの主体性、自主性を育むために「ボランティア活動」や「自分たちで課題を見つけ、追求し、解決していく学習」などを充実したいと考えています。

また、「開かれた学校」「開かれた学級」に向けて、保護者のみなさまの教育活動への参加もさらに進めていきます。是非、学校に足を運んで、普段の教育活動に参加していただきたいと考えています。そして、子どもたちに温かい言葉をかけていただければ、子どもたちの学習意欲もさらに高まると思っています。

大事にされた経験があれば、子どもたちは決して道を踏み外したり、「学び」から離れていったりはしないのではないのでしょうか。

保護者の皆様、そして地域のみなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。